



福島県

福島

深山に抱かれて佇む湯宿にて 大人の時間と貸切り温泉を満喫 土湯別邸 里の湯【土湯温泉】

おふたり様
お勧めポイント

- ・温泉街から離れて静かに過ごせる
- ・全ての風呂がいつでも貸し切れる
- ・部屋で夕食と朝食が食べられる

通りから完全に隔絶された
まさに隠れ家的な温泉宿

南に安達太良山、西に吾妻山が
たおやかに稜線を伸ばしている。
深まりゆく秋の色調を帯びたその
福島の名峰はどこか穏やか。山の
頂が白い綿帽子をかぶるのも、も
う間もなくだろう。

目指す土湯温泉はその山ふとこ
ろに抱かれるように拓けた静かな
温泉郷だ。ユニークな温泉名はお
よそ千年前、大穴貴命が陸奥の国

に下る際、この地を流れる荒川の
ほとりを鉾で突いたところ、温泉
が湧き出したという伝説に由来。
温泉は「突き湯」と呼ばれ、いつ
しかそれが「土湯」に転じたことさ
れている。また、病を抱えた旅人
の夢枕に現れた聖徳太子が、「突
き湯」に霊泉あり」と告げ、湯治
を勧めたという説もある。

清流・荒川沿いに温泉街が広が
り、大小の宿が点在。土産物屋や
土湯こけしの工房などもあり、ど
こか昭和の面影を残すのどかな町



①荒川沿いに温泉宿など
が並ぶ土湯の温泉街。
②③温泉街からは少し
離れ、山道を下った先
に「土湯別邸 里の湯」
はある。お屋敷のよう
な玄関口。④チェック
インの後、客室でお菓
子と抹茶をいただく。

並みも味わい深い。今宵の宿「土
湯別邸 里の湯」は、そんな土湯温
泉の町並みから離れた入口近くに
ある趣深い温泉宿だ。
温泉街への道を少し外れて宿の
看板が示す方向へと車を走らせる
が、雑木林の中をカーブしながら
下っていくアプローチに最初は
少々戸惑いを覚えた。

「ねえ、この道でいいのよね……
」と連れ合いが呟いた頃(時間では
わずかに1分ほどだが)、森にす
っぽりと包まれるように佇む宿の
建物が現れた。通りから完
全に隔絶された静寂の立地
はまさに隠れ家そのもの。

まずはその風情に心が浮き
立つのを覚えた。
どこかのお屋敷のような
玄関口は打ち水されて清々
しさを放ち、凛とした空気が
漂っている。それは白木の
引き戸を開けて中に足を
踏み入れても同様で、建物

内に華美な装飾や売店、自販機と
いった世俗的なものがまったくな
い。それが逆に質の良さを感じさ
せ、またいいのである。
「我が家」感覚で、またはご自
分の別荘でくつろぐように、ゆっ
くりとお過ごしください」と話す
支配人の花井徳良さん。里の湯の
創業は昭和59年(1984)。「土湯



原生林にすっぽりと
包まれたように佇む
宿の建物。山の斜面
に広がる敷地には溪
流もある。ふたりだ
けの穏やかな時間を
約束してくれる、ま
さに隠れ宿と呼びた
くなる風情の一軒宿。



①和のくつろぎと洋の機
能美が融合した露天風呂
付き和モダンの客室。露
天風呂は24時間源泉かけ
流し。②部屋でお茶を淹
れてひと休み。③土湯の
文字が記された下駄。④
部屋の基本は10畳と6畳
の2間続き。⑤ライブラ
リーではコーヒーや紅茶
などが楽しめる。⑥シッ
クなデザインの浴衣。



別邸」とあるように、町の賑わい
から離れた福島奥座敷として、
土湯温泉に宿を構えたのだという。
「建物や露天風呂は溪谷の斜面に
建ち、原生林に囲まれています。
自然の花々や色づく木々、また、
リスやカモシカ、ムササビなどの
野生動物を見ることがありますよ」
和の情緒に満ちた全10室の客室
の窓からはもちろん、溪流沿いに
設えられた露天風呂や半露天風呂、
古代檜内風呂などからも季節の移
ろいを満喫。しかも全ての浴室が
部屋ごとに入浴時間を予約して貸
切ることができる。誰にも邪魔さ
れることなく、温泉と自然を「ふ
たり占め」。そんな贅沢を妻に愉
しんでもらいたくて、この宿を予
約したのである。

心と体が芯から開放される
野趣あふれる露天風呂

部屋に落ち着き、まずは和菓子
と抹茶のもてなしを受ける。季節
感あふれる和菓子は、料理長自ら
が手作りの逸品。これは今夜の
料理も愉しみである。

はっとひと息ついたところで早
速浴衣に着替えて、最初に貸切り
予約した露天風呂へ。鬱蒼と茂る
杉木立の中の階段を下っていくと、
溪流のたもとに「金剛の湯」と名
付けられた2つの湯船があった。
檜と岩に縁取られた大きな湯船と、
八角形の小さな湯船はいずれも野
趣たっぷり。脱衣所は男女別にな
っているが、中に入ると一緒にな
るのは昔ながらの造りだろう(貸



棟をつなぐ廊下に色づいた葉が音を立ててはらはらと
落ちる。自然の中にある宿だからこそ四季の移ろいが
見られ、こんな情緒ある佇まいの中で過ごせる幸せ。